

メキシコ ベリー類の生産と輸出が減速

[Blueberries Consulting](#) 2024年12月23日

全国ベリー類輸出業者協会(Aneberries)のフアン・ホセ・フローレス会長は、市場規模が量的に約11%の縮小を記録したことに言及した上で、メキシコのベリー類の生産と輸出は近年、労働力不足、投入コストの上昇、為替市場の変動などの要因により課題に直面していると述べた。同会長は、ベリー類(イチゴ、ブラックベリー、ラズベリー及びブルーベリー)の輸出量は、2023年の54万1千トンに対して2024年には約52万9千トン(前後の記述と一致しないが原文のまま)になると推定している。

メキシコ農業メディア・ジャーナリスト協会(AMEXMA)と国際農業ジャーナリスト連盟(IFAJ)が主催した第2回農業ジャーナリズム・プレスツアーの中のインタビューで、同会長は、これと同様の輸出と生産量が減少するシナリオは来年も予想されると述べ、「減速は、マクロ経済の問題によって説明される。ドルに対するペソの上昇は助けにならず(有害であり)、投入コストの増加や気候変動も同様だ」と強調した。

輸出のリーダー しかし同会長は、メキシコが米国・カナダ向けベリー類の主要な輸出国になったことを強調した。2021-22年度の収穫期までは、数量の増加は好調であった。しかし、2022-23年度及び2023-24年度からは、「我々は約17%の輸出減少について話している」と同会長は述べた。同会長は、このセクターはメキシコシティにおける重要な雇用創出者であると強調した。6万3千ヘクタールでの栽培は50万~60万の職を創出している。その労働者は主に女性であり、最低賃金の3倍から4倍を稼いでいる。毎週約250万ペソ(約2千万円)が賃金として支払われ、産地の経済を後押ししている。

生産動向 メキシコ農業省と米国農務省(USDA)のデータによると、メキシコの2023年のベリー類の生産量は、合計54万980トンであった。種類別の内訳は次のとおりである。ブルーベリー 7万4,067.40トン、ラズベリー 12万1,842.40トン、イチゴ 26万7,587.90トン、ブラックベリー 7万7,482.50トン

公式の情報に基づく同協会統計部の計算では、2024年のメキシコのベリー類の生産量は約48万6,881トンとなる可能性がある。種類別の推定値は次のとおりである。ブルーベリー 6万317トン、ラズベリー 10万5,133トン、イチゴ 24万9,116トン、ブラックベリー 7万2,314トン

新たな市場を開拓 同会長は、これらの課題にもかかわらず、同協会は市場の多様化と新しい地域での存在感の向上に引き続き注力していると説明した。これは、アラブ首長国連邦やサウジアラビア等の国々への輸出を強化する現在の取組に示されている。同会長は、「28カ国に輸出するほか、引き続き政府と協力して韓国、インド、タイなどの国々にも働きかける。多様化は我々にとって非常に重要である」と述べた。輸出に関しては、メキシコ産ベリー類の95%が北米の米国・カナダ向けであり、残りの5%はヨーロッパ、アジア等の市場に向けられ、オランダ、英国、日本等が主な輸出先となっている。

輸出の重要性にもかかわらず、同会長は、同国の国内需要を増やす大きな可能性があることから、メキシコ人のベリー類の消費を促進する必要性を強調した。これに関連して、国内消費を奨励するキャンペーンを推進するため、労働省、農業農村開発省(Sader)、同省農業食品衛生安全品質局(SENASICA)、及び関係州政府との一層の協力が求められている。

これらの戦略的提携を通じて、より強固な消費習慣を創出し、ひいては国内の生産者の利益になるよう、同協会はメキシコ市場でのベリー類の販売促進を強化することを目指している。同会長は、「メキシコの人口を再びベリー類の大消費者にしたいのであれば、マーケティングに尽力する必要がある。我々メキシコ人は、もっとベリー類を消費しなければならない。研究、マーケティング、及び大規模な国際センターでのプレゼンスに力を入れる必要があるが、それには多くのリソースが必要である」と述べた。

同会長は、長期にわたる持続可能な生産のための中心軸としての持続可能性についても語った。同会長は、特定の灌漑技術により、ハリスコ州の一部のベリー類生産者達が生産における水の消費量を30%削減し、また肥料への依存も減らすことに成功したことを強調した。